

令和7年度 八王子市立式分方小学校 経営報告

校長 清水 隆司

目指す学校像

「自分や他者、一人一人のよさに気付き、
自分の力を伸ばせる学校」



○一人一人の「学びに向かう姿」を伸ばす学校

- 今の自分を知り、「わからない」「できない」ことを乗り越えるため、自ら踏み出そうとする態度や価値観を育てる。また、人との関わり合いを通して「できた」嬉しさを共に感じられる教育活動を推進していく。
- 教師が子供たちの多様な考え方を大切にし、学びのめあてへとつながる授業を行う。
- 地域人材や保護者、中学校区の学校と共に、これからの教育を受けるための基盤となる教科の知識を身に付ける取り組みを行う。
-

○自尊感情（特に役割を果たし、認められることの喜び）を高め、主体的な実践力を伸ばす学校

- 異年齢交流を通して、責任感や自己有用感を高め、子供たちの思いや実践が自己実現につながっていることを味わわせる。
- 互いの良さや活躍、頑張りを認め合い、共に成長することに価値を見出す気持ちを育てる。
- 自分や他人の「想いを大切にする」心を育てるとともに、キャリア教育を推進して自分の将来や生き方（人とのつながり）について考える機会をもつ。
-

○地域の子が安心して通え、地域で子どもを育む学校

- 複雑化する子供たちの課題に組織で向き合い、社会的自立を見据えた居場所づくりに取り組む。
- 学校に保護者や地域の方が関わることで、地域と一体となった学校づくりを進める。（ゲストティーチャー、わくわくサマースクール、学習や行事での教育支援ボランティアの受入、地域の愛があふれる花壇等）

令和7年度の取組目標と方策に対する評価

1. 児童のよりよい人間関係を形成し、「役に立つ喜びを知る子」を育成する。A

具体的方策	成果・課題
<p>① 保護者アンケート、「本校の教育方針が役に立つ喜びを知る子であることを知っている」の肯定的評価90%以上。また、「学校が力を入れて行っている取組（たてわり班活動・地域と連携した学習）」の肯定的評価90%以上。</p> <p>② 児童による学級会の進行がどの学年もできる。キャリアパスポート（オリジナル冊子含む）の効果的で価値のある活用。</p> <p>③ 各行事の「児童の振り返り」や保護者アンケートを学校だよりで紹介し、主体的な活動への価値付けを行う。</p> <p>④ 児童の人間関係や満足度を全学級年2回のQ-U実施から客観的に把握し、学級経営、専科経営にいかす。また、Q-Uに関する研修の実施2回。</p>	<p>① 本校の教育方針については第一回目94%、第二回目が92%、学校が力を入れている取組については、第一回、第二回ともに97%であった。引き続き、教育活動を通して、教育方針の成果が実感できるような教育活動を推進していく。</p> <p>② たてわり班会議等、学級会でのスキルは教育活動の様々な場面で発揮している。</p> <p>③ キャリアパスポートの活用や行事での振り返りでの児童の記述を行事の開会式や学校便りで紹介していった。保護者との関わりの中で学校と保護者が双方に児童の成長に関わっていると実感できた瞬間があった。</p> <p>④ 職員間の情報共有や支援が必要な場合等のアセスメントツールの一つとして役立てることができた。</p>

2. 教師は児童が主体的に学ぶことのできる授業を行い、また、児童に達成感を味わわせる経験を積み重ねさせ、児童の「学びに向かう力」を高める。B

具体的方策	成果・課題
<p>① 長年引き継がれた教師文化、技術のよさが発揮され、授業実践の進化を目指していく。</p> <p>② 各教員が学習用端末の設定を適切に行い、端末を介したトラブルを未然に防ぐ。</p> <p>③ 放課後補習を12月末までに15回以上行う。また、児童の相談ごとに対応する時間を適切に設け、「相談できる大人」を増やしていく。</p> <p>④ 各学年に応じた「忒分っ子ミニマム」やNBK漢字テストに取り組み、基礎学力とできた喜びを味わわせる。「忒分っ子ミニマム」や「NBK漢字テスト」は各学年70%がクリアを目標とし、3学期から実施する。</p> <p>⑤ 「八王子っ子ミニマム」(市学力調査)において1回目から2回目の改善がみられること。</p>	<p>○4・5・6年生の市学力調査では、目標値に対する1学期から3学期への差が大きく近づき、4年生では目標値を大きく上回っていた。また、6年生のはちおうじっ子ミニマムでは、国語で児童の76%、算数で児童の55%がスコアを上げていた。</p> <p>教員の日々の教材研究や若手、中堅、ベテランが経験、学校外での学びを校内で情報共有する場(OJT)を活発に行い、学習に対する課題意識を高め、改善のために取り組んだ結果であると考えます。</p> <p>学習だけでなく、生活も含めて「心」を整えていくことと「学び」が伸びることは学校生活の両輪であると考え、ウェルビーイングを基盤とした基礎基本の確かな定着を目指し、次年度は校内研究と合わせて取り組んでいく。</p>

3. どの子ども安心して通える安全・安心で居場所となる学校づくりに組織的に取り組む。A

(人権・健康・安全への不安に対して組織で対応し、「いじめ」の未然防止、早期発見・解決、不登校や特別な配慮を要する児童への支援に取り組む。)

具体的方策	成果・課題
<p>① いじめ対策委員会及び情報共有と記録作成の時間として毎</p>	<p>① 生活指導主幹を中心に対策委員会や情報交換、記録作成等</p>

<p>週の実施。</p> <p>② 特別支援校内委員会を計画に基づいた実施だけでなく、対応に応じた臨時に開催する。</p> <p>③ 法令や条例に基づいたいじめ対応をいじめ対策委員会を中心に適正に行う。</p> <p>④ 年3回のふれあいアンケートや子ども見守りシートの内容の適切な取り扱いと対応を行う。</p> <p>⑤ 保護者アンケート「いじめのない学校づくりに取り組んでいる」の肯定的評価を80%以上にする。</p>	<p>の毎週の実施ができた。また、スクールソーシャルワーカーも対策委員会に月に1回に参加し、不登校児童といじめへの関連性について確認の場を設けることができた。</p> <p>② 学校生活支援シートの取扱いについて再確認し、旧担任から新担任への引継ぎができるよう態勢を整えた。</p> <p>③ 上記、①と同。</p> <p>④ 保護者アンケートでの肯定的意見は第1回が81%、第2回が75%であった。年度の初めの学校長によるいじめ防止、対応について説明をしたことで昨年度よりも向上したが、保護者への情報提供を引き続き努めていきたい。</p>
---	--

4. 地域と連携した特色ある教育活動を進め、地域に愛着をもち、よさに気付く児童を育てる。A

具体的方策	成果・課題
<p>① 地域人材や地域教材に関わるゲストティーチャーやボランティアを取り入れた学習活動を進める。</p>	<p>① 昔遊びのお手玉（低年生）市内の養蚕農家との連携 蚕飼育から繭の作品作りまで、八王子車人形鑑賞（3年生） 企業の社会貢献活動とタイアップした出前授業（各学年）、資源循環課、JAとの連携、ダンボールコンポストの実践、エコ広場との大沢川での環境学、はちまるサポートとの福祉学習（4年生）劇団風の子</p>

<p>② 8月中旬から二学期始業式までの期間、学校運営協議会が主催する「わくわくサマースクール」を開催し、地域人材を活用した講座を通して子供たちとの交流の機会をもち、長期休業中も学校が子供たちの居場所になるような場として機能させる。</p>	<p>観劇（全学年）、富士美術館での鑑賞、がん教育の実施（5年生）ボイストレーニング、美しい日本語教室（6年生）、ありがとうプロジェクト他、実施。</p>
<p>③ 花壇の維持や植物の栽培などを通して、地域の方々と触れ合う機会をつくる。「ガーデンフロル」</p>	<p>② 延べ567名が参加。2学期始業式前の二週間実施し、長期休業中でも学校が子供たちの居場所になり、地域の方々と触れ合いながら体験活動ができた。</p>
<p>④ 校内の美化に努め、環境を整える。</p>	<p>③ 年間通して花壇の整備に携わってくださった。子供たちの心にも届いており、学校要覧などに学校と花々を描いた作品を表紙としている。</p>
<p>④ 校内の美化に努め、環境を整える。</p>	<p>④ 学校評価の保護者アンケートでは、86%の肯定的意見を得ている。子供たちが安全に学校生活を送ることができるように引き続き努めていく。</p>

5. 教職員のライフワークバランスを考え、自分の強みを生かそうとする職員集団となる。A

具体的方策	成果・課題
<p>① 経験や強み、専門性を生かすとともに、将来の教師像を見据えた校務分掌を意図的に担わせ、教師としての児童観、指導観、指導スキルを向上させていく。</p>	<p>① 校内OJTが活発に行われ、教育情勢にも目を向けた挑戦し続けていく職員室であり、子供たちへの教育活動の充実につながっていった。</p>
<p>② 児童の怪我やトラブルは、初</p>	<p>② 組織対応への意識は高まり、</p>

期対応を丁寧に行う。「連絡・報告・相談」を密にし、組織として誠実に対応し、早期解決と事後の当該児童や保護者へのケアを大切にする。

- ③ 働き方改革が児童の教育活動の充実につながるという観点にたち、校務支援システムやホームアンドスクールやスクールサポートスタッフ、副校長補佐、学年補佐等を効果的に活用していく。
- ④ 育児や介護を抱える職員の負担にも考慮し合える職員集団となるよう、管理職や衛生推進者が中心的役割を担い、職員全体で相互いにメンタルケアに努めていく。

教員が個で対応するケースはない。その意識が早期発見につながり、その後の適切な対応になったケースもあった。当該児童や保護者へのケアだけでなく、事案に関わる全ての児童へのケアやその後の行動改善への課題はあり、よりよい関係づくりが必要なケースもある。

- ③ 働き方改革は子供たちの教育活動の充実になることが原則である。校内の人的資源を十分に生かすとともに前例に寄らない策を講じることに引き続き取り組む。
- ④ 学校職員である前に一人の家庭人である。職員には仕事へのやりがいを感じながらも心身ともに満たされる状態であることが教育活動の充実になることを意識させていく。